
Re:「愛してる」

初恋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Re：「愛してる」

【Nコード】

N1636F

【作者名】

初恋

【あらすじ】

女を道具としか考えないホストとある女性の物語

エピソード

俺は超能力者なのかもしれない、なぜなら人をいのままに操れるからだ。

まあ、その対象は「女」だけだが。

今思えば彼女も超能力者なのかもしれない……

「誠也さん3番テーブルに指名はいました。」

黒いスーツを着た男が誠也の耳元でこごえで囁いた。

「分かった」 誠也は小声でその男に返事をした。

「ごめん、指名はいちゃったから行くね」 誠也は横にいる派手なドレスを着た30代後半の女に言った。

「ええ」 まだ1時間もたっていないじゃん、もっと話しようよ」
女は誠也の腕をつかみぶりっ子のような口調で誠也を引き止めた。

「俺も本当はもっと三咲さんといいたいけど、お客さんよんでるからねえ、これで今日は我慢して」 誠也は三咲のおでこに優しくキスをした。

三咲はそれ以上はなにも言わず、突然の誠也からのサプライズに頬を赤らめた。

誠也はその三咲の様子を見てココロの中で「ふっ」と笑った

3番テーブルへ向かう途中にさきほど小声でささやいた男がちかず

いてきた

「どうですか、さっきの客、上玉ですかね？」

「あいつはだめだ、金の匂いがしない、多分後2、3回きたらおしまいだな。」

「そうですか、いい感じしたんだけどな……」男は残念そうに顔しながらさっさと行った

「ごめんね、待たせて」そいって誠也は3番テーブルにすわった

「遅い！ もつとはやく来てよ なんなのさっきのテーブルにいた女」この女は鏡子、この店に月100万は落とす、いわゆる（太い客）だ

「こっちだって仕事なんだから、勘弁してよ。俺は本当は鏡子さんと飲みたいんだよ。」誠也は鏡子の目をまっすぐ見て言った

「まあいいわ 今日は何本ドンペリ入れちゃおっかなあ」そいいながら鏡子はかばんから札束を取り出した

誠也は六本木の一流ホストクラブ「ジェイド」のナンバー1ホストである、18からこの世界に入ってもう7年になる、4年前からナンバー1でその座を4年間守ってきた。

誠也この世界に入る前から女は金を落とす道具としてしか考えてい

なかった。

この物語は女は金としか考えないホストとこれから誠也の前に現れる女性との物語である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1636f/>

Re:「愛してる」

2010年10月29日13時22分発行